和光中学校道徳通信　　*生徒会スローガン「自学豊心 ～前向き・励まし・思いやり～」*

和 ～心をつなぐ～

令和４年９月９日
第 ３ 号

人生は自分でつくるもの 遅いということはない

来日したカーネル本人

和光中学校では、毎月「道徳の日」にさまざまな人の生き方や社会情勢について話を聞き、自分自身の心と向き合い、じっくり考える時間をもっています。

９月は、ケンタッキー・フライドチキンの店の前に立っているあの「カーネルおじさん」の生き方に学びました。「黄金の世代」を生きる皆さんの心に、カーネルさんのメッセージは届いたでしょうか。

何人かの感想を紹介します。　　〔※ 裏面：放送内容〕

☆ １年生 ☆

○ 一番心に残った言葉は「人生は自分で作る」です。何もしなかったら何も起きない、何か頑張れば何かが起こると気づきました。だから僕は頑張って自分の人生を作っていきたい。

○ カーネルは、人生でたくさんの不幸に見舞われながらも自分の店を開くことに成功したすごい人だと思った。僕が食べているケンタッキーのチキンは、この偉大な人、カーネルさんが人生をかけて作ったチキンだと分かった。そのことに感謝してチキンを食べたいと思った。

☆ ２年生 ☆

○ 自分の今の成績とかは関係なく、自分の人生は「心から『やろう』と思ったかどうか」で決まるということが分かりました。私はこれからもいつまでも「頑張る」を大切にします。

○ カーネルが全米のレストランを 1,000 軒以上回ったというところがすごいと思いました。私だったら、100 軒ぐらいであきらめてしまいそうなので、あきらめないことはとても大事だと思いました。

○ 今できないから将来もできるわけがないと、はじめから否定してはいけないことが分かった。何事も心から「やろう」と思うことも大切だと分かった。

☆ ３年生 ☆

○ 何歳からでも本気でやろうと思って立ち上がっていくカーネルの姿はすごくかっこよかったです。本気でやろうと思うことの大切さがよくわかりました。

○ カーネルさんはお金持ちというイメージが強かったけれど、貧しい農家に生まれたことを初めて知りました。生涯の親友ピート・ハーマンとの出会いがなければ「ケンタッキー」というものはこの世に存在していなかったと思うと、すごいことだなと思いました。

★保護者の皆様へ

お子様と意見の交流をして、ぜひ感想などをお気軽にお寄せください。

切り取り線

保護者通信欄（お子様を通じて担任へお渡しください。）

カーネルは貧しい農家の長男として生まれました。最終学歴は小学校６年生。幼くしてお父さんを亡くし、毎日工場で働くお母さんの代わりに料理を作ったり、パンを焼いたりしていました。

１０歳から農場で働き始め、その後は、ペンキ塗り、電車の車掌、陸軍に入隊、鉄道の機関車の修理工など、実に４０種類以上の職業を経験しました。

３９歳のとき、仕事を探すなかで出会った石油会社のマネージャーに小さなガソリンスタンドを任されます。カーネルは、毎日、他の店より２時間も早い朝の５時に店を開き、当時誰もやっていなかった「お客さんの車のフロントガラスを磨く」「タイヤのチェックをする」という無料サービスに力を入れ、その結果、店はたちまち評判になりました。周辺に住む農民にガソリンを売り、商売もうまくいっていた矢先に、１９２９年の「世界恐慌」が起こります。銀行や商店が次々と潰れたり物の値段が急激に下がったりして、世界中が大変な混乱に陥(おちい)りました。売ったガソリンの代金を集めることができず、ガソリンスタンドは倒産してしまいます。

そんな時、彼の仕事ぶりと評判を聞きつけた他の会社から別のガソリンスタンドを任されることになりました。カーネルはその店の小さな物置を改造して、テーブル一つ、座席六つの小さな食堂を作りました。彼の手作りの料理はやがて評判になり、お客さんが行列をつくって並ぶようになりました。それから９年が過ぎたある日、食堂が火事になり焼け落ちてしまいます。

５１歳になったとき、１４７席もある大きなレストランを開いたものの、店の近くに高速道路が通ったために客が来なくなってしまい、ついに閉店。レストランは売りに出されてしまいます。彼の手元に残ったのは調理器具と古い車一台だけでした。６５歳のときです。

当時、無一文になったカーネルは一人の青年と出会います。後に、生涯の親友となるピート・ハーマンです。レストランを経営していたピートの自宅に招かれたとき、カーネルは夕食にチキンを作りました。そのおいしさに心底感動したピートは、自分のレストランのメニューに彼のチキンを加えることにしました。このときカーネルは自分にただ一つ残された「フライドチキンのレシピ」の価値に気づかされたのです。そして、車にスパイスを載せ、全米のレストランを一軒一軒回っていきました。断わられても、断わられてもあきらめませんでした。そして、ついに１，０１０件目でようやく契約を結ぶことに成功しました。その後、会社を立ち上げてからわずか８年で６００の店ができました。

７３歳を過ぎても、カーネルは世界各国の自分の店を見て回りました。年間数十万キロの旅になったといいます。日本にも３回、８２歳、８８歳、９０歳のときに来ています。

来日した際には、店の前に立つ自分とそっくりの「カーネルおじさん」の像を見て、とても喜んだそうです。現在、ケンタッキー・フライドチキンの店は世界１４５か国に２４，０００以上あります。

カーネルは最後に日本を訪れてから数か月後、９０歳でこの世を去りました。生前、彼はこんなことを言っています。**「人生は自分でつくるもの。遅いということはない。」**

いろいろな職に就き、自分の築き上げた店を６５歳で失い、それでもあきらめず立ち上がった人の言葉です。今の成績だけがすべてではありません。自分を信じて頑張ることが大切です。遅すぎることはありません。

最後に、カーネルは次のような言葉も残しています。それは、**「私がやったことなど誰にでもできることだ。ただ一つ大切なのは、「心から『やろう』と思ったかどうかである。」**